

5. 水族館記録 2010年

1. 研究・教育

- 1月 7日 西田宏紀 教授と院生 1人（大阪大学大学院理学研究科西田研究室）が研究用マボヤ480個体を搬入し、大型実験水槽（第3水槽棟作業室）を8.0-8.5℃に冷却して蓄養を始めた（研究概要については本年報第21巻、8ページ参照）。その後4月27日までに数度回収に訪れ蓄養を終了した。
- 2月18日 田辺市立新庄中学校第1学年の職業聞き取り学習に対応した（生徒3人、教諭1人）。
- 3月 9日 清川小学校（生徒10人、教諭3人）の見学で質問に答えた。
- 5月20日 日置中学校（生徒23人、教諭3人）のバックヤード見学を指導した。
- 6月 1日 長野中学校（生徒18人、教諭9人）のバックヤード見学を指導した。
- 6月13日 放送大学京都学習センター面接授業（21人）の見学を指導した。
- 8月18日 堀川高校（生徒27人、教諭3人）のバックヤード見学を指導した。
- 9月 2日 京都大学臨海実習4部に参加していた吉川幸宏 3回生にキモガニ2個体、ヒオウギ1個体、マガキガイ1個体を提供した。
- 11月2日 死亡したタカアシガニ1個体（オス）のエラからミノイソメ4個体を採取し、Göteborgs大学（スウェーデン）のFredrik Pleijel 教授に提供した。
- 11月7日 放送大学京都学習センター面接授業（19人）の見学を指導した。
- 11月9日 龍神小学校（生徒22人、教諭6人）のバックヤード見学を指導した。
- 11月16日 北富田小学校（生徒33人、教諭5人）のバックヤード見学を指導した。
- 11月24日 NPO法人ハートツリーの2名（うち付添1名）のバックヤード見学を指導した。
- 12月14日 NPO法人ハートツリーの2名（うち付添1名）の飼育体験を指導した。内容は和歌山県教育委員会主催「きのくに県民カレッジ」の連携講座である「バックヤード体験」と同じにした。

2. 普及

- 1月7日 「冬休み解説ツアー」を終了した。教員4人と飼育担当3人とで、12月26日から行った。10時45分から表側の展示水槽を、11時15分からバックヤードを案内・説明し（定員各10人）、表側94人、裏側107人が参加した。
- 1月14日 紀伊民報がホンコンイシガニについて取材した（1月23日付）。
- 3月 2日 読売ライフ（大阪・和歌山の読売新聞購読者に配布）の取材に対応した。
- 3月25日-4月7日 「春休み解説ツアー」を、教員4人と飼育担当3人で実施した。10時45分から表側の展示水槽を、11時15分からバックヤードを案内・説明し（定員各10人）、表側135人、裏側117人が参加した。
- 4月17日 「バックヤード体験」（9:30-11:30）と「水族館の磯採集体験」（13:30-16:00）（和歌山県教育委員会主催「きのくに県民カレッジ」の連携講座）を行った。参加者は前者2名、後者2名。
- 5月 3日 紀伊民報が「水族館の磯採集体験」と「バックヤード体験」（和歌山県教育委員会主催「きのくに県民カレッジ」の連携講座）の電話取材をした。
- 5月10日 「fuマガジン」（情報誌）の取材に対応した。

- 5月15日 「水族館の磯採集体験」(9:30-12:00)と「バックヤード体験」(13:30-15:30)(和歌山県教育委員会主催「きのくに県民カレッジ」の連携講座)を行った。参加者は前者2名、後者5名。
- 5月26日-6月1日 毎日新聞、紀伊民報各社が、「内海富士夫展」について取材した。
- 6月12日 「水族館の磯採集体験」(9:30-12:00)と「バックヤード体験」(13:30-15:30)(和歌山県教育委員会主催「きのくに県民カレッジ」の連携講座)を行った。参加者は前者5名、後者5名。
- 7月21日-8月31日 「夏休み解説ツアー」を、教員4人と飼育担当4人で実施した。10時45分から表側の展示水槽を、11時15分からバックヤードを案内・説明し(定員各10人)、表側328人、裏側310人が参加した。
- 7月23日 テレビ東京がヒトデについて取材した。
- 8月19日 毎日放送が海辺の危険な生物について取材した。
- 8月23日-25日 紀伊民報、テレビ和歌山、毎日新聞、毎日放送、読売新聞各社と、NHKテレビが白いウナギ(榎本 多 氏より受贈、日置川支流城川産)について取材した。なぜ体色が白色だったかは不明だが、眼球が黒色だったのでアルビノ個体でないことは確かであった。また、飼育を続けている間、体表に黒い斑点が少しずつ増加し、体色が次第に黒くなっていった。
- 10月30日 「バックヤード体験」(13:30-15:30)(和歌山県教育委員会主催「きのくに県民カレッジ」の連携講座)を行う予定であったが、申込がなかったため中止となった。
- 11月22日 アップルマガジン(昭文社)「家族でおでかけ」記事の継続用取材シートに対応した。
- 11月24日 紀伊民報が来年の干支(卯)に関する生き物として、アイゴについて取材した。
- 12月4日 「バックヤード体験」(13:30-15:30)(和歌山県教育委員会主催「きのくに県民カレッジ」の連携講座)を行った。参加者は19名。
- 12月25日-1月10日 「冬休み解説ツアー」を、教員4人と飼育担当4人で実施した。10時45分から表側の展示水槽を、11時15分からバックヤードを案内・説明した(定員各10人)。

3. 機械・設備

- 2月16日-19日 第3水槽棟温室の電気配線の更新工事を業者が行った。
- 4月2日 第4水槽棟の餌料用冷凍庫2台・冷蔵庫1台を更新した。
- 4月12日-14日 第1水槽棟のNO.3揚水ポンプの更新工事を業者が行った。
- 4月30日 ボイラー(第2水槽棟)と空冷ヒートポンプチラー(第4水槽棟)の運転を停止し、各循環系統の加温を終了した。
- 5月12日 第2水槽棟電気室の過電流継電器が不具合のため、更新工事を業者が行った。工事中は停電とし、自家発電装置を運転して主要箇所へ送電した。
- 6月28日 第2水槽棟のNO.5循環ポンプの点検整備を行い、消耗部品他取り換えを行った。
- 7月20日-9月22日 水冷ウォーターチリングユニット(第1水槽棟)と空冷ヒートポンプチラー(第4水槽棟)を、夏季のピーク電力抑制のため夜間運転し、各循環系統の水温を25-28℃に維持した(夏季の弱冷運転)。

- 9月26日 第3水槽棟の消火栓ホース2本（メーカーによる不具合品）の取り換えを業者が無償で行った。
- 10月18日 重油地下タンク（4000ℓ）及び配管の漏洩検査を業者が行った。
- 11月 9日 ボイラー（第2水槽棟機械室）の大掃除を行った。
- 11月24日 消防設備の定期点検を業者が行った。
- 12月 4日 ボイラーと空冷ヒートポンプチラーを運転し、各循環系統の水温を19-21℃に維持した。
- 12月14日 高圧受変電設備及び低圧設備の定期点検を行った。点検中は停電とし、自家発電装置を運転して主要箇所に送電した。

4. 収集・飼育・展示

- 1月 7日 401号水槽（「干潟 泥底の潮間帯にすむ生物」）のチゴガニ展示区画に、保温用のハロゲンランプ投光器を設置した。これによりチゴガニが巣穴から出てくるようになった。
- 1月12日-21日 白点病が第4水槽棟第2循環系統の魚類に認められたため、硫酸銅を計4回投与した。
- 1月12日 302号水槽のナヌカザメ幼魚の体表についての寄生虫（種名は不明）を駆除するため淡水浴を8分間行った。
- 3月 2日 101号水槽（「中・大型回遊魚とサメ・エイ」）のイケス内で飼育していた魚類（マアジ、マルアジ、ゴマサバ、ギンユゴイなど6種182個体）を226号水槽（「群れをつくる小魚とイセエビ類」）に移動させ、226号水槽の展示を再開した。
- 3月 3日 田辺市内之浦のアマモ場にてヒメイカ9個体を採集し、3月5日に228-6号水槽（「さまざまな無脊椎動物」）で展示した。
- 3月 8日 403号水槽（「岩礁 黒潮の豊かな生物」）にライブカメラを設置し、京都大学HPにてネット運用を開始した。3月9日には水族館HPからも観覧可能になった。
- 3月10日 209号水槽（「節足動物 甲殻綱」）にて、シリコン補修工事の終了に伴い、フジツボ類およびカメノテの展示を再開した。
- 3月16日 306号水槽（「小型の魚類・無脊椎動物」）にてベニクラゲのポリプの展示を開始した。
- 3月16-17日 円月島周辺にて、イシサンゴ類の採集を目的とした磯採集を行った。
- 3月17日 タカアシガニ（オス）1個体をよし善商店より購入し、223号水槽（「節足動物 甲殻綱」）に収容した。その後、3月22日にオス1個体、3月31日にメス1個体を同店より購入した。
- 3月17日 南浜磯にてヒラヒメアワビおよびゴマサバ幼魚（約80尾）を採集した。ヒラヒメアワビは205号水槽（「軟体動物 ヒザラガイ綱・マキガイ綱」）に収容し、ゴマサバ幼魚は第4水槽棟予備水槽に収容した。
- 3月27日 ネコザメ一尾（オス、45cm）を井上 誠 氏から購入し、406号水槽（「砂底 夜間に活動する魚」）に収容した。
- 4月22日 204号水槽（「環形動物 ゴカイ綱」）に展示していたオニイソメ用吊り水槽を改良した。中板の底をかさ上げすることにより、オニイソメ全

- 体像が観察できるようにした。さらに、中央に仕切りをつけることで、オニイソメを2個体展示することが可能になった。
- 4月18日 411-3号水槽（「フグ目 カワハギ科・ハコフグ科・フグ科」）のハコフグ3尾の体表に白い顆粒の付着が認められたため、淡水浴を4分行った。ベネデニア（小）30個体が確認されたが、白い顆粒は取れなかった。
- 4月28日 413号水槽（「スズキ目 フェダイ科・ハタ科・ヌノサラシ科・イシダイ科」）のкокテンアオハタの眼球白濁が悪化したため、淡水浴を行ったところ、ベネデニアが多量に確認された。
- 4月30日 413号水槽（「スズキ目 フェダイ科・ハタ科・ヌノサラシ科・イシダイ科」）の魚類でベネデニアが確認されたので、ハダクリーン付きのマアジ切り身を与えたが、ほとんど食べなかった。
- 5月 4日 411-3号水槽（「フグ目 カワハギ科・ハコフグ科・フグ科」）のシマフグの体表に白い顆粒が認められたため淡水浴を6分行ったが、白い顆粒は取れなかった。
- 5月10日 みなべ町堺漁港からのイセエビ刺網・ヒラメ刺網などにかかった動物の購入や採集による今期の収集活動を終了した。刺網漁期間中（10月～4月）、ほぼ週1回のペースで収集に訪れた。
- 5月12日 マダコ1個体をよし善商店より購入し、208号水槽（「軟体動物 イカ綱」）に収容した。
- 5月17日 413号水槽（「スズキ目 フェダイ科・ハタ科・ヌノサラシ科・イシダイ科」）のкокテンアオハタにベネデニア症が認められたため、ハダクリーン付きのペレットをマアジ切り身に詰めて給餌したところ、全部食べ、効果があった。
- 5月18日-5月27日 白点病が第4水槽棟第2循環系統の魚類に認められたため、硫酸銅を計4回投与した。
- 5月31日 当館の創設80周年記念特別展（内海富士夫展）を行った。これにともない、ウォールケースにB1サイズの特別パネル6枚（人物紹介・年表・研究×2・教育普及・まとめ）および資料30点（うち標本17点）を展示し、209号水槽および225号水槽に内海富士夫氏に関連するラベルを掲示した。
- 6月7日-6月9日 304号水槽で使用していた総ガラス水槽を解体し、以前使用していたマクロボード製水槽（1992年以前に「紀南の淡水生物コーナー」で使用していたもの）を改良して設置し、タイトルを「小型の魚類・無脊椎動物1」とした。これに伴い、306号水槽（「小型の魚類・無脊椎動物」）のタイトルを「小型の魚類・無脊椎動物2」に変更した。304号水槽にも306号水槽と同形の仕切り板を収容し、小型の動物を区画分けして展示することを可能にした。また、小型動物の観察用に、304号水槽と306号水槽にチェーンで吊下げた虫眼鏡を6つ設置した。
- 6月15日 センネンダイ1尾（約60cm）を峯松淳典氏（上富田町）より購入し、412号水槽（「スズキ目 フェダイ科・イサキ科・タイ科・フェフキダイ科」）に展示した。
- 6月22-24日 第1・2・4水槽棟の各循環系統の濾過槽15槽を、逆洗と水中ポンプからの噴き出しを併用して徹底洗浄を行った。

- 7月15日 21:40頃に停電が発生し、101号水槽（「中・大型回遊魚とサメ・エイ」）の循環ポンプが停止した。発見までに約3時間が経過してしまい、その間酸欠状態が続いたため、エイラクブカ7尾、カンパチ9尾、ブリ3尾、シマアジ3尾、スギ1尾が死亡した。
- 7月13日 101号水槽（「中・大型回遊魚とサメ・エイ」）のガラス面に多数のイソギンチャクが付着した。対策として、水温をやや下げるとともに、硫酸銅を計6回（7月27日-8月13日）投与して駆除した。
- 7月21日 306号水槽（「小型の魚類・無脊椎動物2」）で2009年3月26日から長期間飼育していたツマジロオコゼ1尾が死亡した。
- 8月13日 第4水槽棟予備水槽のクテナアオハタ1尾（全長41.5cm、体長34.2cm、1440g）が水槽から飛び出し、死亡した。
- 10月4日 303号水槽にトラフグ属の交雑個体を展示した。
- 10月18日 302号水槽のナヌカザメ幼魚の最後の1尾が死亡し、展示を中断した。寄生虫による衰弱が原因と考えられた。
- 10月29日 413号水槽（「スズキ目 フェダイ科・ハタ科・ヌノサラシ科・イシダイ科」）のキハツソク1尾が負傷したため、第4水槽棟受け入れ水槽に収容した。この個体は10月25日に岡本昭生氏から購入した個体で、以前から収容していた別のキハツソク2尾に攻撃された可能性が考えられた。
- 11月1日 306号水槽（「小型の魚類・無脊椎動物2」）にクラゲ展示用のタイコ型小型水槽（直径30cm、奥行10cm）を設置し、タコクラゲを展示した。この水槽は、給水を利用して、水槽内で回転する水流を発生させることが可能で、これによりクラゲが水槽の底に沈んだり、排水溝にクラゲが詰まったりすることなく飼育できるようになった。
- 11月4日 229号水槽北側の壁面に、全動物門の系統関係を表したパネル（90cm×180cm）を取り付けた。
- 11月10日 403号水槽（「岩礁 黒潮の豊かな生物」）で展示動物の入れ替え作業（主に0歳魚に更新）を行い、同時に底砂の洗浄などの大掃除をした。
- 11月11日 407号水槽（「深み 陸棚下部にすむ魚」）でナヌカザメ1尾が孵化したが、302号水槽は寄生虫感染の可能性があったので、第2水槽棟R-6予備水槽にカゴを浮かべて収容した。
- 11月15日-24日 404～406、409～411号水槽（魚類のみを展示している6個の水槽）の大掃除を行った。いくつかの種では他の水槽へ移収したり、予備水槽の魚と交換したりした。
- 11月19日 瀬戸港の筏に、許可を得てウミトサカ類が付着できるようなロープを12本吊るした。
- 11月25日 マダコ2個体をよし善商店より購入し、208号水槽（「軟体動物 イカ綱」）に収容した。
- 11月26日 201号水槽（「刺胞動物 花虫綱」）で自然繁殖しているイソギンチャク類の繁殖を抑えるため、エアレーションを1本追加し、強く吐出させてみた。
- 11月29日-12月1日 第1・2・4水槽棟の各循環系統の濾過槽15槽を、逆洗と水中ポンプからの噴き出しを併用して徹底洗浄を行った。

- 12月19日 夜間低潮時に寒サ浦でムラサキハナギンチャク1個体を採集した。
- 12月22日 413号水槽（「スズキ目 フェダイ科・ハタ科・ヌノサラシ科・インダイ科」）でベネデニア症が認められたため、ハダクリーン付きペレットを埋め込んだマアジの切り身を投与した。

5. 受贈

- 1月28日-11月16日 真鍋 正 氏（白浜町）より5回に及び、ザラカイメン1個体（網不知湾）。スイショウガイ1個体（全長6cm）。ハナオコゼ1尾（全長13cm、畠島周辺）。ノコギリガニ1個体（江津良沖）。カワヨウジ1尾。
- 2月15日 板野公一 氏（愛媛県）より、ホソウミエラ5個体（50-70cm、愛媛県上島町魚島村、底引き網）。
- 4月20日 田芝恒男 氏より、ハナミノカサゴ1尾（全長26cm）。
- 5月 1日 大江敦紀 氏（白浜町）より、ホシマンジュウガニ1個体（甲幅10cm、番所崎沖、イセエビ刺し網）。
- 5月4日-7月23日 鈴木博之 氏（白浜町）より2回に及び、ホシキカイウツボ1尾（全長25cm、白良浜、転石下）。サツマカサゴ1尾（全長16cm、白良浜）。
- 5月6日-12月1日 荒賀忠一 氏（白浜町）より6回に及び、ヒメハゼ・ヘダイ・クロホシフエダイなどを中心に計18種66尾（池田湾・横浦湾・日置川口、釣り）。
- 5月16日 新稲一仁 氏（白浜町）より、ヒメイワホリイソギンチャク1個体（3cm、鴨居漁港近く、転石下）。
- 5月29日 笠松 仁 氏（上富田町）より、ハナオコゼ1尾（全長2.5cm、高瀬川口、生け捕り）。
- 6月 4日 岡本昭生 氏（白浜町）より9回に及び、ニジギンポ・マアジ・カゴカキダイなどを中心に計37種158個体（袋湾内と周辺沿岸、釣りと手網）。
- 6月13日 西澤照彦 氏より、ニザダイ1尾（全長2.5cm、臨海）。
- 6月28日 藤島由理加 氏（奈良女子大学）より、ヤマトオサガニ10個体（甲幅2cm、内之浦）。
- 7月11日 和田恵次 氏（奈良女子大学）より、ヤマトオサガニ1個体（甲幅3.8cm、内之浦）。
- 7月14日 島 和敏 氏（白浜町）より、サンゴタツ1尾（全長6cm、網不知湾）。
- 7月25日 佐田空斗 氏（田辺市）より、ガンテンイシヨウジ2尾含む11種27点（鳥ノ巣、磯採集）。
- 8月 9日 真鍋和功 氏（白浜町）より、イボガザミ1個体（甲幅6cm、カニ網）。
- 8月14日 岩本孝寛 氏（白浜町）より、アヤトビウオ1尾（尾又長6.7cm、鴨居）。
- 8月16日 榎本 多 氏より、白いウナギ（詳細は「2.普及」を参照）1尾（全長45cm、日置川支流城川、延縄）。
- 8月19日-12月27日 真鍋 賢 氏（白浜町）より2回に及び、コブヒトデモドキ1個体（幅長9cm、網不知湾）。ホクヨウウミウシ科の一種1個体（全長15cm）。
- 9月11日 出羽賢幸 氏（田辺市）より、マツダイ1尾（全長17cm、文里湾奥、手網）。
- 10月8日 中村和彦 氏（由良町）より、アミメノコギリガザミ1個体（甲幅18.6cm、メス、由良湾、カニ網）。
- 10月28日 岩城弘司 氏より、メンコヒシガニ1個体（甲幅7cm、田辺湾、エビ網）。

12月1日 藪 常二 氏(白浜町)より、オオモンカエルアンコウ1尾(全長32cm、瀬戸港)。

6. 生物観察メモ(水槽・野外)

- 1月 6日 釣人が持ち込んだカマス(死魚)を同定したところタイワンカマスだった(全長約50cm)。白浜町千畳敷のルアー釣りで約30尾を釣り上げたらしい。
- 2月10日 214号水槽(「棘皮動物 ウミユリ綱」)でウミシダ類の崩壊が顕著になった。第2水槽濾過槽の工事で使用した塗料になんらかの有毒成分が含まれていたと考えられた。
- 2月26日 225号水槽(「刺胞動物 ヒドロ虫綱・花虫綱」)のイボヤギが伸長しなかった。2月27日も伸長せず、これも工事による有毒成分の流入が原因と考えられた。
- 3月 1日 225号水槽(「刺胞動物 ヒドロ虫綱・花虫綱」)のイボヤギ伸長が認められず、さらに一部表面に腐敗膜が確認された。このため、混合ミンチとペット汁の供給を停止した。
- 3月 9日 第2水槽棟濾過槽の逆洗浄を行ったところ、1系にて自然繁殖していたホシムシが大量に死亡していた。
- 3月 9日 207号水槽(「軟体動物 マキガイ綱・ニマイガイ綱」)でヒオウギ、イタヤガイなど3種13個体が中毒症により死亡した。
- 3月10-11日 改修工事に使用された防水エポキシ塗膜片を入れた容器に、ホシムシ10個体を収容して毒素テストを行ったところ、塗膜片を入れなかった容器では特に変化が見られなかったが、塗膜片を入れた容器ではホシムシが20時間後に全滅した。これにより、第2水槽棟における無脊椎動物の大量死と衰弱は濾過槽補修工事で使用された防水エポキシ塗料の毒によるものと推察された。
- 3月11日 第2水槽棟で展示していたナマコ類及びトコブシ類(7種21個体)に中毒症状が確認されたため、第3水槽棟予備水槽に収容した。
- 3月13日 214号水槽(「棘皮動物 ウミユリ綱」)のテヅルモヅル類に中毒症状が見られた。
- 3月18日 303号水槽の仕切り区画にて展示していたオレンジ色のイセエビが脱皮し、体色が青色に変化した。
- 3月19日 第2水槽棟1系統の各水槽に自然繁殖しているニホンウミケムシが砂底から外に出ていた。中毒症が原因と考えられる。
- 4月 6日 402号水槽(「藻場 植物をすみかとする動物」)のガラス面側上部に、クロメラシキ新芽(平均約13cm)を10数株確認した。
- 4月 8日 206号水槽(「軟体動物 マキガイ綱」)にて自然繁殖していた小型イソギンチャクが中毒症により消滅した。
- 4月13日 401号水槽(「干潟 泥底の潮間帯にすむ生物」)にてチゴガニ43個体が出現し、うち24個体がウェイピングをしていた。
- 4月16日 303号水槽でイセエビの色彩変異個体(オレンジ色)同士が喧嘩し、一方の個体の胸脚が5本無くなった。そのため、この個体を第3水槽棟予備水槽に移動させた。
- 4月30日-5月1日 222号水槽(「節足動物 甲殻綱」)にて、水面にフィロゾーマ幼生が

多数認められた。オオバウチワエビの幼生と考えられた。

- 6月 7日 409号水槽（「ウナギ目 ウツボ科・アナゴ科・ウミヘビ科」）にて多数の浮遊卵（種名不明、直径約2-3mm）が見られた。収容していた種は、ニセゴイシウツボ・トラウツボ・ウツボ・アミメウツボ・アデウツボ・ハワイウツボ・ゴイシウミヘビ・ユリウツボ・ワカウツボ・コケウツボである。
- 6月13日-10月30日 スズメダイ科3種（オヤビッチャ・ロクセンスズメダイ・シマスズメダイ）の産卵と卵保護行動が410-2,3号水槽（「スズキ目 カゴカキダイ・チョウチョウウオ・キンチャクダイ・スズメダイ・ベラ・ブダイ各科」）で見られた。卵は水槽のエポキシ樹脂塗装壁面と水槽中央のコンクリートブロックに産みつけられた。オヤビッチャ（成魚12尾）については6月21日～10月30日に61回以上、ロクセンスズメダイ（成魚7尾）は6月13日～10月21日に37回以上、シマスズメダイ（成魚20尾）は8月6日～10月30日に40回以上の産卵を確認した。6月13日の水温は22.9℃、10月30日は20.8℃だった。
- 6月20日 101号水槽（「中・大型回遊魚とサメ・エイ」）のロウニンアジ8尾が黒化し、メスと思われる黒化していない1尾を追尾した。
- 6月21日、24日 403号水槽（「岩礁 黒潮の豊かな生物」）の東壁面でソラスズメダイの産卵と卵保護行動が見られた。ソラスズメダイの壁面での産卵が観察されたのはこれが初めてである。
- 6月29日 403号水槽（「岩礁 黒潮の豊かな生物」）の上・中段4、5か所でセイトカイソギンチャク属の一種が大量発生した。
- 7月 5日 403号水槽（「岩礁 黒潮の豊かな生物」）のガラス面を掃除した直後に、ニセクロナマコ2個体が放精した。
- 7月13日 403号水槽（「岩礁 黒潮の豊かな生物」）でサザナミフグ（全長約18cm）がオオスリバチサンゴをかじっていた。ポリプを食べていたと考えられた。
- 8月25日 402号水槽裏の予備水槽から、形の悪いサカサクラゲ8個体を間引きし、高架タンク岩山北東側草地の日陰に捨てた。その後約23時間経過して確認したところ、すべての個体が生存しており、うち2個体を水槽に入れたところ、しっかりと拍動した。
- 10月26日 217号水槽（「棘皮動物 ウニ綱」）のアカオニガゼ1個体が濾過槽の逆洗をした直後に放精した。

7. その他

- 1月12日 ガラス交換の寸法取りのため、201号水槽と203号水槽の水抜きを行った。
- 1月26日 水槽補修工事のため、226号水槽に展示していた魚類（マアジ、ゴマサバ、ギンユゴイなど）を数回に分けて101号水槽内の生簀に移動させた。
- 2月1日-17日 館内の補修工事を行うため休館した。工事の主な内容は、第3水槽棟観覧通路床の底上げ、201号・203号水槽のガラス交換、204号・208号・209号・224号・226号水槽のシリコン打ち直し、および228号水槽のコンクリート打ちであった。これに伴い、201号・203号・204号・208号・209号・224号・226号水槽の水抜きを行い、さらに卓上型の228-1～6号水槽を移動した。

- 2月 4日 第3水槽棟観覧通路床の嵩上げのため、コンクリート打ちが行われた。
- 2月 6日 読書コーナー床の塗装が行われた。
- 2月 9日 201号・209号水槽の岩組棚をセメントで接着した。
- 2月10日 203号水槽の岩組棚をセメントで接着した。
- 2月12日 201号・203号・204号・208号・209号・224号水槽のシリコン補修が完了したので、淡水張りをを行った。しかし、201号・204号・209号水槽で水漏れが確認されたため、再補修が必要となった。
- 2月14日 水槽内に繁殖していたイソギンチャク駆除のため、214号水槽のウミシダ類を移動させ、淡水張りをを行った。
- 2月15日 水族館検討会を開いた。
- 2月15日 日本動物園水族館協会による第38回飼育技師資格認定試験の開催により、山本泰司 技術職員がアドベンチャーワールドにて試験官業務を行った。
- 2月15日 203号・208号水槽の展示を再開した。
- 2月16日 228号水槽のラベルケースと塩化ビニール製流し台の取り付けを行った。
- 2月17日 228-1～6号水槽および214号水槽の展示を再開した。
- 2月18日 第3水槽棟観覧通路の工事終了にともない、水族館を再開した。
- 2月23-24日 201号・204号・209号のシリコン再補修が完了したので淡水張りをを行った。しかし、204号・209号水槽で再び水漏れが確認されたため、再々補修が必要となった。
- 2月24日 第2水槽濾過槽・貯水槽、R4～R9予備水槽、および221号～225号水槽のキーパーデッキ板の交換が行われた。
- 2月25日 201号水槽の循環を再開した。
- 2月25日 204号および209号水槽のシリコン打ち直し工事が行われた。
- 2月26日 226号水槽の循環と、201号水槽の展示を再開した。
- 2月28日 チリ中部沿岸にて発生した地震（マグニチュード8.8）により津波警報が発令されたため、14:30に改札を終了し、15:00に閉館した。この地震による水族館への被害はなかった。
- 3月 8日 209号水槽の岩組棚をセメントで接着した。
- 3月 9日 第2水槽棟の改修作業が完了した。
- 3月21日 ホシムシの死骸浮遊など汚れがひどかったため、第2水槽棟1系統濾過槽のみ逆洗浄を行った。
- 3月22日 409号水槽の壁面を掃除したところ、エポキシ塗装が溶け出し、水の変色が認められたため、換水を行った。
- 4月 1日 三木賢二 氏（京都大学監査室）が視察に訪れた。
- 4月 5日 204号水槽および209号水槽で新規にコーキングされたガラス額縁のシリコン周辺に刺激臭を感じた。ホルマリンを疑ったが、4月18日-19日にホルマリン比色紙を用いて調べたところ、検知されなかった。
- 4月 7日 水族館検討会を開いた。
- 4月14日 飼育会議を開いた。
- 4月14日 223号水槽の結露水用といを補修した。
- 5月 5日 15:50頃から臨海地区一帯が停電したため、16:15に閉館した。停電は17:14まで続いた。

- 5月 9日 303号水槽の排水管口に動物（ヒトエガイもしくはオニカサゴの卵塊）がつまり、漏水した。これにより観覧通路および床の誘導灯が浸水し、第4水槽棟4系統貯水槽の水位が1/3ほど減水した。
- 6月10日 海上保安庁の横野 充 氏ら3名が、イセエビの密漁に関連し、224号水槽でイセエビの摂食行動をビデオ撮影した。
- 6月14日-15日 加藤哲哉 技術職員と、原田桂太 技術職員が、日本動物園水族館協会第76回近畿ブロック水族館飼育係研修会（串本海中公園で開催）に参加した。
- 7月 7日 229号水槽で漏水が発生したため、北側ガラス側面・下面のシリコンを自前補修した。
- 10月18日 水族館検討会を開いた。これを受けて、水族館で行っていたアンケート調査を終了し、代わりに自由に意見を記入してもらうノートを設置した。
- 11月4日 229号水槽の南側下角で水漏れが発生したので、自前でシリコンを切削し洗浄・乾燥させた後、シリコン補修および保護用PVCの取り付けを行った。その後、11月15日に水張りして漏水がないことを確認し、循環を復旧した。
- 11月15日 原田桂太 技術職員が、橿原市昆虫館で行われたリニューアルワークショップに参加した。
- 11月29日 田辺信吾 氏（葛西臨海水族園 飼育展示係）が視察に訪れ、特にチゴガニの展示・飼育について説明した。